特定非営利活動法人
ユニバーサルインプラント研究所

平成21年　UIR 創立 35 周年記念講演会

「インプラント医療の進むべき道“過去、現在、未来”」

実行委員長：中川　孝男

期　日：　平成 21 年 8 月 8 日（土）　10：00～21：00

会　場：　テレコムセンタービル東棟 20 階会議室
住所　〒135-8070　東京都江東区青海 2-38

協賛：特定非営利活動法人　口腔医科学会

（社）日本口腔インプラント学会指定研修施設
特定非営利活動法人　　ユニバーサルインプラント研究所

事務局

住所：　〒105－0004　東京都港区新橋1－11－2　鈴木ビル 3 階
TEL/FAX：　03-3573-2360
E メールアドレス：　uir@universalimplant.com
学会ウェブサイト：　http://www.universalimplant.com

電話問い合わせ時間：　10:30～13:00、14:00～17:30（土曜日は、～15:30）
定休日：　水曜日、日曜日、祝祭日

講演会参加者へのお願い

1. 会場内では必ず名札を装着してください。
2. 会場内にはクロークがございません。また荷物のお預かりは致しませんので、各自で管理してください。なお、貴重品は常に身に着けるようお願いします。
3. 会場内での携帯電話は、電源をお切りになるか「マナーモード」に設定し、通話はご遠慮下さい。

ユニバーサルインプラント研究所創立 35 周年記念学術講演会にあたって

1973 年にユニバーサルインプラント研究所が産声をあげて、早や 35 年の歳月を経ました。当時のインプラントは日本の歯科医の中でもほんの一握りの先生たちが歯科インプラントを手掛けるにすぎない時代であり、一般的には歯科医の間でも賛否両論がありました。もっと正確にいえば反対論者が大勢を占めインプラントを行う歯科医が正しい評価を受けることが困難な歴史を経て来た経緯があります。日本国内でも日本歯科インプラント学会（現在の日本口腔インプラント学会の前身）が設立されたばかりで、会員数も数百人程度でした。私共ユニバーサルインプラント研究所は当時より数名の有志により始められ、多くの臨床家、研究者との交流を通じて、お互いに切磋琢磨して臨床と研究に励んでまいりました。

35 年後の今日、学会そのものも我々の研究グループもやっと皆様に認められる状況になってきたというのが偽らざるところです。言うまでもなく歯科インプラント医療は時代の先駆けとして、患者さんの社会生活の変化や美しさや自然さを求める患者さんの夢や希望を叶える治療法として極めて一般的な医療行為として評価されるに至っています。現在ではインプラントは歯科医療にとって欠かすことの出来ぬ必然的医療に進歩発展した事は世界的に見ても、国内的に見ても歴然たる事実として認められるところです。

とりわけインプラントをめぐる従来の歯周病学、補綴学、口腔外科学などの専門分野との隣接領域はインプラント医療の発展により体系的学問領域の確立に大きな貢献があり、科学的実証法が取り入れられたことにより安心、安全の医療に大きな一歩を築く礎になったことは紛れもない事実であります。また基礎学問である生物理工学や再生医療の進歩発展が今後より一層の臨床成績を向上させる可能性を与えることが出来る魅力的な研究領域でもあります。

しかしながら人類の歴史からいえばこの数十年は僅か一瞬にすぎないものであり、数十年の歴史ではまだ総ての問題が解決したとは言えないのが実情であります。多くの科学技術は否定されたものが見直されたり、時代の変遷のなかで多くの試行錯誤が繰り返されたりしていることは長い歴史の中では常に起こりうることであります。

長年のインプラント臨床家の一人として敢えて言わせて頂けば、全く未知の研究分野であったインプラント臨床をもう一度再考し 21 世紀医療にふさわしい更なる飛躍をめざすべきであるという思いを深く感じます。我々は幅広い研究や臨床を通じて国民医療とりわけ口腔インプラントが患者の真の幸福の還元に繋がる医療として社会還元すべき役割を担った医療人であることを自覚するべきであります。このような危惧を抱くことは安易で画一的なシステム優先の大量増産時代インンプランが患者さんをめぐる様々な社会問題を孕んでいるからに他なりません。

重要なことはこれまでの数多くのインプラント症例を誠実に検証し、多くの成功例も予後不良例についても専門領域としての正しい学術的な精査、分析のもとに今後のインプラント臨床につなげる基本理念や科学的実証が重要であるからに他なりません。

35 年というインプラント臨床の時代の流れの中からこのようなターニングポイントを機会に是非この点を議論すべきとの思いでこの度の特別講演会を開催致しました。此の度の皆様の格段のご協力とご理解に深く感謝申し上げます。私共ユニバーサルインプラント研究所は、是非ともこの大きな大命題を目標としてこれからも進んで行き、今後とも日本の口腔インプラント医療の進歩発展の一躍を担う事が出来れば幸いです。

平成 21 年 8 月 8 日

特定非営利活動法人　ユニバーサルインプラント研究所　施設長　　星　野　清　興

特定非営利活動法人　ユニバーサルインプラント研究所

UIR 創立 35 周年記念祝賀講演会

「インプラント医療の進むべき道“過去、現在、未来”」

プログラム

日時：平成 21 年 8 月 8 日（土）10:00～18:00
会場：テレコムセンタービル東棟 20 階

9:00～	受　付　開　始	
		総合司会：野原　通
9:50～	開　会　の　辞	実行委員長：中川　孝男
	挨　拶	施設長：星野　清興
10:00～11:00	UIR　会　員　講　演 清水　玄介　（10:00～10:15） 亀卦川　博仁（10:20～10:35） 安藤　正実　（10:40～10:55）	座長：内藤　義久
最先端テクノロジー講演		
11:20～12:00	「ピエゾエレクトリックサージェリーと CGF」 講師：黄　炳珍（大連医科大学客員教授）	座長：千葉　順一
13:00～14:00	「口腔外科分野への Er, Cr；YSGG レーザーの実践的活用術」 講師：津田　忠政（神奈川歯科大学非常勤講師）	座長：木下　保
14:00～15:00	**施　設　長　講　演** 「長期臨床例とその考察」 講師：星野　清興（ユニバーサルインプラント研究所施設長）	座長：由良　博
UIR 設立 35 周年講演 インプラント医療の進むべき道“過去、現在、未来”		
15:10～16:10	「Dental Implant の発展と進化論に学んだ 30 年」 講師：小嶋　榮一（アメリカ歯科インプラント学会名誉会員）	座長：星野　清興
16:10～17:10	過去から現代コラボレートしたインプラント臨床の診断と治療 －骨代謝マーカーから新しい上部構造まで－ 講師：奥寺　元（東京形成歯科研究会会長）	座長：築瀬　武史
パネルディスカッション 「インプラント医療が取り組むべき“未来”」		
17:10～17:50	コーディネーター：星野清興 パネラー　：小嶋　榮一（アメリカ歯科インプラント学会名誉会員） 奥寺　元　（東京形成歯科研究会会長） 築瀬　武史（日本歯科先端技術研究所会長）	
17:55～	閉　会　の　辞	千葉　順一
18:10～20:30	**UIR 設立 35 周年記念祝賀会** 会場：テレコムセンタービル東棟 21 階展望レストラン	

特定非営利活動法人
ユニバーサルインプラント研究所
創立 35 周年記念祝賀会
式　次　第

18 : 10	開　会　の　辞	実行委員長　中川孝男
18 : 15	挨　　拶	UIR 施設長　星野清興
18 : 20	来　賓　紹　介	
18 : 30	来　賓　挨　拶 斉藤　毅　（日本大学歯学部名誉教授）	
18 : 35	鏡　開　・　乾　杯 奥寺　元　（東京形成歯科研究会会長）	
18 : 45	演　　奏 ギターボーカル奏者：パオロ　ゴディーノ	
19 : 20	来　賓　挨　拶 相浦　洲吉　（日本口腔インプラント学会関東甲信越支部長） 堤　定美（前京都大学再生医科学研究所教授、日本大学歯学部特任教授） 山内　六男（日本口腔インプラント学会常任理事　朝日大学歯学部教授） 山上　哲賢　（京都インプラント研究所所長）	
19 : 50	認定講習会受講生会員章授与式	日本口腔インプラント学会専門医 UIR 会員　千葉順一
	専門医研修会講師代表挨拶 菅原　哲朗（キーストーン法律事務所弁護士、日本口腔インプラント学会専門指導者）	
20 : 20	演　　奏	
20 : 50	閉　会　の　辞	UIR 理事　安藤正実

会場までのアクセス方法

UIR 設立 35 周年記念講演会開催会場：テレコムセンター東棟（EAST）20 階会議室
会場住所：〒135-8070　東京都江東区青海 2-38

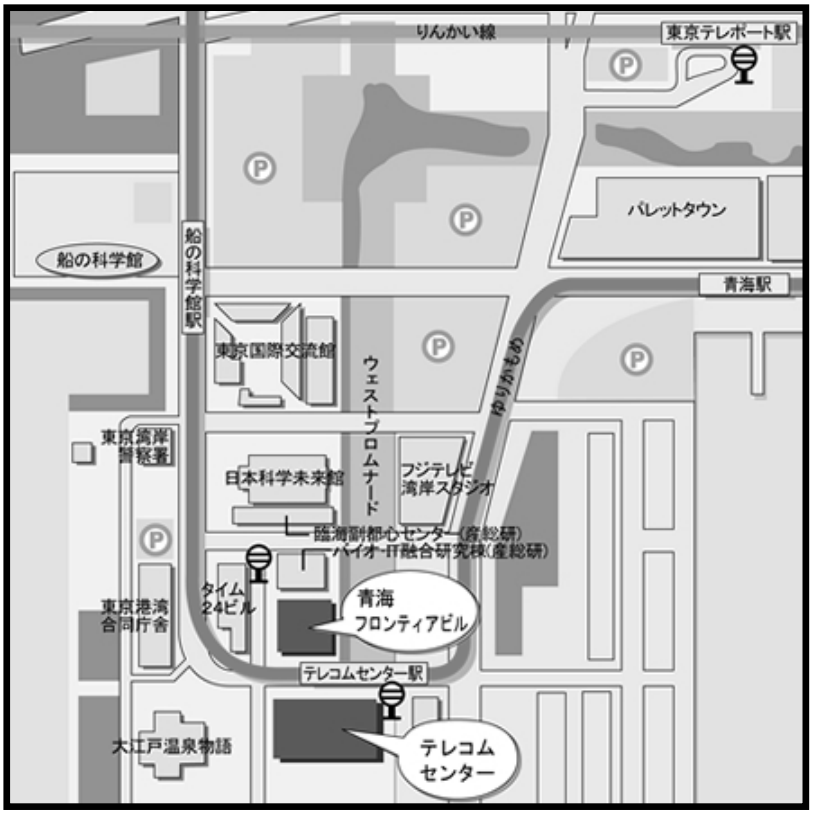
交通案内：（有料駐車場がテレコムセンター地下にございますが、祝賀会で飲酒される方はお車での来場はご遠慮ください。）

電車（テレコムセンターと青海フロンティアビルの両方ともテレコムセンター駅下車）
・“ゆりかもめ”「新橋駅」よりで 18 分、テレコムセンター駅下車。
・　“りんかい線”にて「国際展示場駅」へ。徒歩で“ゆりかもめ”「有明駅」に乗り換え、テレコムセンター駅下車。
・　“りんかい線”にて「東京テレポート駅」下車。無料巡回バスにて 2 分。

テレコムセンター駅からテレコムセンター会場への道順
テレコムセンター駅の改札口をでた後、左に進んでください。道なりに進むと約 30 秒でテレコムセンターの 2 階入口（西棟：WEST）があります。入口の左側にある渡り廊下を通って東棟のエレベーターにお乗りください（20 階は、東棟と西棟がつながっていますので直進して西棟のエレベーターに乗り 20 階についてからでも、東棟にいくこともできます）。

詳しくは東京テレポートセンターのホームページをご覧下さい。
東京テレポートセンターHP アドレス　http://www.tokyo-teleport.co.jp/

会場までのアクセス方法



UIR 創立 35 周年記念講演会

講 演 抄 録

UIR 会員講演

10:00~10:15

座長：内藤　義久

インプラント上部構造作製時における「石膏膨張補正を利用した模型作製システム」の有用性

The useful system of making cast with correcting plaster expansion on making implant superstructure

清水　玄介　・　涌島　学　・　堀　健太郎　・　星野　清興

（ユニバーサルインプラント研究所）

講　演　抄　録

Ⅰ．目的：

天然歯を支台とする固定性補綴装置と異なり，インプラントの上部構造は，わずかな適合性のくるいが持続的・経時的にフィクスチャーなどに力を及ぼし，治療の成否に大きな影響を与える.今回，上部構造の適合性に影響を与える数ある因子の中で，模型作製の過程に着目し，特に水平方向の石膏膨張を補正することを目的とした模型作製システムである「サイザーシステム（Zeiser System）」を使用して模型上で比較・検討を行った.

Ⅱ．概要：

サイザーシステムを用いた作製模型上と通法に従った作製模型上でフレームワークの適合を比較した.比較方法は，10ユニットブリッジのポリエステル樹脂製の原型模型（以下：原型）をシリコーンラバー印象材を用いて印象し，通法に従って超硬石膏を流し硬化後，模型を取り外す．次に取り外した同印象を用いて，サイザーシステム模型用として同種の超硬石膏を流し硬化後模型を取り外す.その後各模型上にてワンピースキャスト法にて作製したフレームワークを原型に戻し，それぞれの適合性を比較・検討した.

Ⅲ．結果：

通法に従い作製した模型上とサイザーシステム模型上では，それぞれ作製したフレームワークは適合する．そこで原型にそれぞれのフレームワークを装着したところ，サイザーシステム模型上で作製したフレームワークの適合は原型と一致するが，通法に従い作製した模型上でのフレームワークは原型に一致しなかった.

Ⅳ．考察：

模型上と口腔内での補綴物の適合性の不一致は，日常起こっている現象である．特に天然歯の様に歯根膜を有していないインプラント上部構造の作製においては，わずかな適合性の不一致を極力補正していかなければならない．今回，臨床におけるインプラント上部構造の作製においても，大変良好な結果が得られていることから，サイザーシステムを利用して補綴物を作製することは大変有用性がある.

演　者　略　歴

清水　玄介（しみず　げんすけ）

2000 年 3 月　明海大学歯学部歯学科卒業
2000 年 4 月　明海大学病院オーラルリハビリテーション学講座入局
2006 年 9 月　明海大学病院 PDI 浦安歯科診療所赴任
2008 年 4 月　UIR 主催（社）日本口腔インプラント学会認定講習会修了

UIR 会員講演

10:20～10:35

座長：内藤　義久

上顎洞迷入フィクスチャーの内視鏡下摘出術

The fiberscope extraction of a fixture which went into the maxillary sinus

○亀卦川　博仁[1,2,4)]　・　野原　通[2,4)]　・　星野　清興[3,4)]

○KIKEGAWA　HIROHITO[1,2,4)]，NOHARA　TORU[2,4)]，HOSHINO　KIYOOKI[3,4)]

講　演　抄　録

Ⅰ．目的：

近年インプラント手術の技術進歩に伴い，適応症の拡大と共に偶発症に遭遇する機会が増加している．特に上顎での偶発症のひとつに上顎洞への迷入が挙げられる．今回我々は内視鏡を使用したフィクスチャーの摘出術を行い，迅速，安全かつ低侵襲な症例を経験したので報告する．

Ⅱ．症例の概要：

56 歳，女性．　初診： 2008 年 11 月．　主訴: インプラントを摘出して欲しい．　既往歴：特記事項なし．現病歴：近医で 2008 年 6 月に総義歯不適合を主訴に 6 本のインプラント手術を受け，6 ヶ月経過後のレントゲン撮影の際，右上 5 番相当部のフィクスチャーが上顎洞へ迷入していることが確認された．全身麻酔下，フィクスチャー摘出依頼で当院紹介受診に至る．当科初診時患者から，周囲に知られたくないので外見上腫れない様に手術をして欲しいとの意向で，2008 年 12 月 1 日横浜南共済病院　歯科・口腔外科入院，12 月 2 日，全身麻酔下にて右上顎犬歯窩相当部へ約 2cm の歯肉骨膜切開後剥離．犬歯窩への φ 約 1cm の骨削孔から内視鏡を挿入しフィクスチャー摘出術施行．12 月 3 日経過良好にて退院に至る．使用機器は，オリンパス社製 φ5mm 胆道ファイバースコープ(CHF-P20Q)，ビデオシステム(OTV-F2)，光源装置(CLV-F10)，φ2mm 回収ネット(No．00711184)．

Ⅲ．結果：

術後の顔貌腫脹や疼痛も軽度であり，従来行ってきた通法の犬歯窩からの骨開削，上顎洞粘膜一部除去と比較して，明らかに低侵襲で患者への負担が少ない術式であった．3 日後の経過を紹介医へ確認し，疼痛腫脹も軽度で経過は良好であった．

Ⅳ．考察および結論：

インプラント手術では埋入位置，方向，角度や深さは重要な因子となる．不幸にして偶発症に遭遇することは十分想定されるが，そうした時に患者本人の気持ちや身体への負担を配慮した，低侵襲なリカバリー手術を選択肢にすることは言うまでもない．今回行った内視鏡下での術式は，内視鏡が挿入可能な最小限歯肉切開と骨削量や粘膜の浮腫や肥厚下でも，明視野で確実な摘出が行えた．また，術後の患者負担を最小限に抑えることが出来たことから，通法と比較して有用であると考える．

演　者　略　歴

亀卦川　博仁（きけがわ　ひろひと）

日本大学歯学部卒
東京医科大学大学院卒
日本大学口腔外科第一講座
東海大学口腔外科
東京医科歯科大学インプラント学講座
現在、きけがわ歯科医院、新横浜インプラント・矯正クリニック開業

1)きけがわ歯科医院・新横浜インプラント矯正クリニック(Kikegawa Implant and Ortho Dental Clinic)
2)横浜南共済病院　歯科・口腔外科（Yokohama Minami Kyosai Hosp）
3)新橋並木通り歯科(Simbashi Namikidori Dental)
4)特定非営利活動法人　ユニバーサルインプラント研究所(NPO Universal Implant Research Institute)

UIR 会員講演

10:40～10:55

座長：内藤　義久

graftless concept

患者主導のインプラント治療最前線

安藤　正実

講演抄録

近年、インプラント治療の急速な普及により一般国民においてもその治療の benefit and risk について徐々に理解されて行く傾向にあり、術者の趣味趣向や technical skill による治療法の選択ではなく、患者の本当に望むことにこたえる治療法の選択がより重視され、また同時にそれらが患者から支持されうる治療法となっていく現状である。

オッセオインテグレーションの概念が prof, brånemark によって紹介されてから 40 有余年になるが,本邦においてそれらが一般化してきたのはまだ 10 数年にすぎない。その間、高度に吸収した顎骨に対して、subperiosteal implant ramus implant distruction of osseogenesis, GBR ,GTR,sinus lift technique,socket lifttechnique ,lateral expansion, などの各種インプラントやオギュメンテーションテクニックが応用され急速な症例拡大をもたらした。しかしそれらのいくつかの方法は長期的予後に不安があったり，侵襲に対して効果が不明確であったりしたため現在では応用されることが少なくなったものもある。

従来より一貫して、患者の希望というものは、短期間、低侵襲で、安価、そして審美的な結果、長期的な予後である。このことは患者アンケートを行った際必ず希望の上位にあげられる項目であり疑いの余地はなく、これらにこたえることこそ我々術者の使命ではないであろうか。これらの要望にこたえるべき最新の考え方が Graftress concept であり。short implant ,Tilted implant ,All on 4 ,New zygoma implant technique などがその例である。今回それらの紹介とケースプレゼンテーションをさせていただく。

演者略歴

安藤　正実（あんどう　まさみ）

1983 年 昭和大学歯学部　卒業　昭和大学歯学部第二保存学教室　入局（特別研究生）
1995 年 厚生大臣認可医療法人　新正会　設立
1998 年 IAT Implant System　認定施設（IAT Implant Center）
2001 年 Camlog Implant System（ドイツ）　認定施設
2003 年 Nobel Biocare Implant System（スウェーデン）　認定施設
日本口腔インプラント学会専門医
歯学博士
UIR 理事
日本アンチエイジング学会理事
ISO 理事
A.O（アメリカインプラント学会）アクティヴメンバー
口腔医科学会認定医
ORC 安藤歯科インプラント矯正センター理事長
ノーベルバイオケアー
IAT インプラントシステム　インストラクター
厚生労働省臨床研修指導医
ICOI 認定医

最新テクノロジー講演

11:30～12:10
座長：千葉　順一

ピエゾエレクトリックサージェリーと CGF

黄　炳珍

講　演　抄　録

最近のインプラント治療は材料・設備・技術の革新により飛躍的に進歩している。その中でもピエゾ技術はインプラント治療分野で新しい波を引き起こしている。この講演ではピエゾエレクトリックデバイスの基礎及び臨床応用―特に上顎洞征服に関連する内容を中心にピエゾの応用法を紹介する。そして最近新しく話題を呼んでいるＣＧＦの基礎・臨床応用及び将来の可能性について紹介する。

演　者　略　歴

黄　炳珍（こう　へいちん　Bingzhen Huang）

北京医科大学医学部医学科（現北京大学医学部）卒
その後 7 年間国立大学病院で外科医師及び大学外科講師
1995.4－1999.3 岡山大学大学院歯学研究科
BMP に関する研究に従事
歯学博士（Ph.D.）取得
TEXAS UNIV, USA に 2 年半留学。硬組織基質蛋白の基礎研究に従事
UT-Houston (USA) 元研究員
ハルピン医科大学客員教授
大連医科大学客員教授

最先端テクノロジー講演

13:00～14:00
座長：木下　保

口腔外科分野への Er,Cr;YSGG レーザーの実践的活用術

津田　忠政

講　演　抄　録

近年インプラント治療が市民権を得て多くの臨床家がその治療を行うようになってきた。このような中レーザーのもつ無麻酔での治療や早い治癒、鎮痛、消炎効果、殺菌性等が注目され、その応用が期待されている。どのような応用が可能であるかといえば以下のようなものである。

１．二次手術
２．麻酔効果
３．術後の鎮痛、消炎、治癒促進
４．骨造成
５．歯肉整形
６．インプラントドリリング
７．他

レーザーをインプラントに応用するとき、まず考えなくてはいけないことはその照射における影響である。もし照射する部位の近くにインプラントが存在するとすれば、その照射によりインプラント本体の表面性状の変化や熱影響等がおこる危険性を考えるべきであろう。また照射条件によりそのリスクコントロール出来るのであれば、そのレベルを調べる必要があるだろう。

各種の応用のなかで、基礎研究をまずお話しし、骨造成とくにサイナスリフト、ディストラクションオテオジャネシス、さらに骨採取とその治癒効果を期待してレーザー照射を行った症例等を供覧しその照射レベル、その反応について述べてみたいと思う。

さらに、CT-3D モデルを活用した戦略的抜歯による ALL－On－4 についても取り上げる。また、レーザーの優れた消炎、殺菌効果に着目し、インプラント周囲炎の治療についても言及する。

演　者　略　歴

津田　忠政（つだ　ただまさ）

歯学博士
医療法人社団　光揚会　理事長
ICOI フェローシップ、ディプロメント
神奈川歯科大学非常勤講師
明海大学歯学部非常勤講師
日本レーザー歯学会理事・認定医・指導医
日本アンチェイジング歯科学会常任理事
日本顔面インプラント学会評議員
日本全身咬合学会評議員
WCLI（世界臨床レーザー学会）マスター・WCLI 日本支部理事

施　設　長　講　演

14:00～15:00
座長：由良　博

長期臨床例とその考察

インプラントの Risk と Benefit

星野　清興

講　演　抄　録

インプラントの一般臨床歯科への普及は、治療技術の普遍化や基礎研究の理論構築のおかげで歯科医師も、また治療を受ける患者側も適切なインフォームドコンセントを確立した上で行える環境は、かなり進んできたように思われる。しかし、インプラント界の先達達は医療技術のみではなく、如何に社会認知をうけるかという大問題に身を張って挑戦し、あるときは苦しみや落胆に陥り、またある時は患者の治療後の表情を見て、心ひそかに喜びを噛みしめてきた長い歴史がある。

今回の講演においては、臨床口腔インプラントの手術時における神経、血管の損傷や骨の性状の判断、上顎手術における副鼻空取り扱いの注意点、出血感染に対する具体的対処法、全身管理の重要性、ショックの予防に対する具体的対処法、全身管理の重要性、ショック予防の術前準備について述べたい。また、そのための術前診断法などのほか、最近のデジタル画像を利用した手術シミュレーションや術前診断膜型の作成方法等についても言及したい。さらにインプラントの成功と失敗の概念についても演者の経験から知り得たことと具体的対応についても話したい。

演　者　略　歴

星野　清興（ほしの　きよおき）

1970 年　日本大学歯学部卒
同　　年　東京大学医学部口腔外科
1978 年　日本大学医学部第二生理学教室
1985 年　医学博士

現在
東京都港区にて開業
日本口腔インプラント学会指導医・専門医
特定非営利活動法人　ユニバーサルインプラント研究所　施設長
特定非営利活動法人　口腔医科学会　理事長

ＵＩＲ創立 35 周年記念講演

15:10～16:10

座長：星野　清興

Dental Implant の発展と進化論共に学んだ 30 年

小嶋　榮一

講　演　抄　録

ユニバーサルインプラント研究所設立 35 周年、誠におめでとうございます。心よりお慶びお祝い申し上げます。思えば Dental Implant の原点である師匠の Leonard I. Linkow 先生及び故乙部朱門先生に学び今日まで大過なく継続できましたのも、進取の気象に富んだチャレンジ精神があったからこそと思っております。

先生はグローバルな視野のもとで、いち早く CAD/CAM システムを 20 数年前に取り入れて、我が国では最初に Dental Implant 治療に応用し、学会で発表し映像診断については画期的な第一歩をしるし、Implant 界の発展に貢献したのを忘れてはいけません。

先生の Dental Implant の臨床での姿勢は Implant の Commercial Doctor として業者に媚びるでもなく、又企業誘導型の Implant 材料に翻弄される事なく、色々な Dental Implant の 100 時間コースの施設長として多くの若手 Implantologist の育成に力を注いでいるスーパー歯科医です。

Endosteal Implant(骨内インプラント)と Subperiosteal Implant(骨膜下インプラント)を取り入れ Linkow 先生の Implant Philosophy を頑なに受け継いで貞節を守り通しています。私も同感ですし、Subperiosteal Implant が出来なくして Implantologist に非ずです。これからも多くの患者さんに福音を与えて Dental Implant の発展に尽くして下さい。

私は今回、骨内 Implant とは？･骨膜下 Implant とは？についてのべますが、我が国では現在、骨内 Implant である Root Form Implant が主流をなしていて、骨膜下 Implant の発展が無く、ややもすると忘れさられそうな気がします。今回は温故知新としての Dental Implant30 年の進化論を語る事にします。

師資相承

演　者　略　歴

小嶋　榮一（こじま　えいいち）

開業地:東京都港区浜松町、世界貿易センタービル 14 階メディカルセンター内小嶋歯科クリニック
1962 年　日本大学歯学部卒業・東京大学医学部附属病院　口腔外科研究生
防衛医科大学校非常勤講師(口腔外科)
日本大学歯学部兼任講師(歯周病科)
日本インプラント臨床研究会　会長
日本口腔インプラント学会関東甲信越支部･支部長(1981 年)
日本口腔インプラント学会初代施設長
日本歯科インプラント学会･夏期大学講師(1985 年)
日本口腔インプラント学会試験委員(1996 年)
日本歯科インプラント学会正会員　委員会　初代委員長(1979 年)(認定医･指導医の前身)
以上歴任
アメリカ歯科インプラント学会(AAID)名誉会員、認定医

ＵＩＲ創立 35 周年記念講演

16:10～17:10

座長：簗瀬　武史

過去から現代
コラボレートしたインプラント臨床の診断と治療
－骨代謝マーカーから新しい上部構造まで－

奥寺　元

講　演　抄　録

医学の評価は患者様の最大限の満足によって決定される。公的機関の研究施設や大学病院の研究施設では、本当の意味での患者様と接点を求めた満足度を測ることができないが、開業医が深く接点がありよく患者様の状況を現実に照らし合わせて満足を把握できる位置にある。しかも研究を伴えば鬼に金棒である。歯科の先端技術の分野で、その目的のために先端歯科界を牽引してきたのが研究施設ユニバーサルインプラント研究所である。その主宰者、星野清興先生その人である、まさに研究者臨床家の鏡である。

どれぐらいの私財を投じて研究や弟子の教育に没頭してきたでしょうか。私は歯科界にはそのような立場で活躍してきた人は他に認識しておりません。当然ながら患者様の信頼と満足度は高い。同業者から向けられた刺客とも思える存在は別として凄い信頼がある。

まさに継続の力で 35 周年同じ道を歩む、私たちは 27 年で追い越せない力が存在している。

インプラント創設期の環境は、現在の臨床とは違う環境にあり、一人一人が大変努力して臨床を構築したものである。現代はどうであろう。作られた既定の臨床しかできない企業誘導型の臨床で、少し状況が違うとお手上げや、イージーなケースは無くなり、臨床が尽き始めている。

しかし、創設期の荒波からの経験から、多くの拡大臨床の理念が生まれ、機能回復はもちろんのこと、万人は元気で若く生きたいという希望に叶える臨床が構築されつつある。それは、再生医学を取り入れた理論で星野先生も取り組んでいる。

現在再生学を取り入れた顎再生と顎保存、それから波及する生理的変化や機能変化によりフェイシャルコントロールができ、所謂アンチエイジングの処置が可能となった。

私の今回の記念講演は、フェイシャルコントロールから骨診断と治療法、また、新しい上部構造までの理論と実際の話を進める。これらの理論により先駆的な時代の先端を進み、閉塞的で単純で誰もが行っている臨床を拡大する内容を講演する予定である。

演　者　略　歴

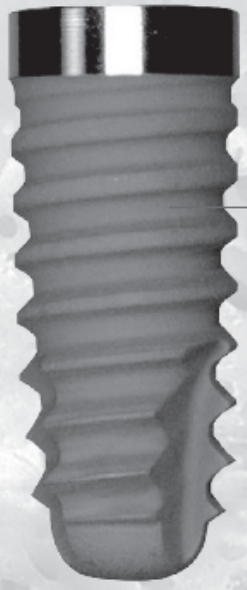
奥寺　元（おくでら　はじめ）

昭和 46 年　神奈川歯科大学卒業
昭和 46 年　神奈川歯科大学予防歯科教室勤務
昭和 47 年　米国オレゴン大学留学
昭和 50 年　王子歯科クリニック　開院
昭和 56 年　医学博士取得
前国際 ICOI 会長
（社）日本口腔インプラント学会指定施設　東京形成歯科研究会施設長
王子歯科美容外科クリニック院長
国際美容外科学会/口腔美容外科アカデミー代表

インプラントシステムの選択基準は？

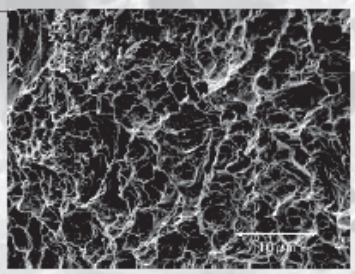
インプラント治療のフィールドは日進月歩で広がっています。
プラトンインプラントシステムは、広い守備範囲で臨床の
多様化に対応しています。

D1
Bone quality



SAG
Sand-blasting +
Acid Etch +
Glow Discharge Treatment

ナノメーターレベルでコントロールされた表面微小構造とGDT（グロー放電処理）効果により、表面のぬれ性を高め早期の骨形成、強固な骨結合を実現します。

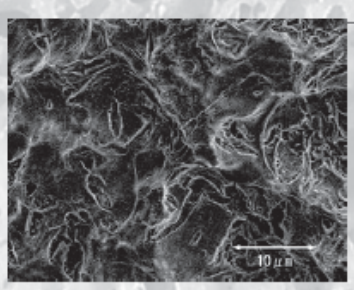


D2
Bone quality

D3
Bone quality

BiO® Hydroxyapatite film coating

結晶化度95%以上のＨＡを薄膜コーティングすることにより、埋入初期では骨伝導能により早期にバイオインテグレーションを獲得し、最終的にはチタンと骨の直接結合を目指します。



D4
Bone quality

プラトンセミナー 2009熊本

安全確実な上顎インプラントを考える

基調講演「一再考ー　予知性の高い上顎インプラントに求められること」 添島　義和 先生
（九州インプラント研究会 会長）

特別講演 Ⅰ「解剖学的見地から 総論」―――― 高橋　常男 先生
Ⅱ「耳鼻咽喉科領域からの提言」―――― 國弘　幸伸 先生
Ⅲ「歯科口腔外科の立場から」―――― 久保田 英朗 先生
Ⅳ「大学インプラント外来臨床の現場から」―――― 細川　隆司 先生

申込受付中

日時：2009年11月15日（日） 10：00～16：30
会場：熊本県歯科医師会館　4F大会議室
参加費：10,000円　定員：先着200名

医療機器承認番号 21600BZZ00132000
医療機器承認番号 21300BZZ00259000

ISO9001・ISO13485 取得

機能性・審美性・予知性
インプラントロジストのニーズがシステムに

PLATON JAPAN　http://www.platonjapan.co.jp/

TEL 0120-37-6705　FAX 0120-36-8952

本　　社　〒195-0062 東京都町田市大蔵町56 鶴川アカデメイアビル
TEL 042-734-8088(代)　FAX 042-734-1109
営 業 所　北海道・仙台・名古屋・大阪・九州

JIAD (KOM) IMPLANT

承認番号 20800BZZ00317000

ONE-Stage

1-Piece

2-Piece

PURE titanium

SCREW type

㈱デンタルチタニウム技研

〒700-0013 岡山市北区伊福町 1-10-25

Tel. 086-256-0088 Fax. 086-256-0115

http://www.jiad-implant.jp e-mail: kom@jiad-implant.jp

斬新な視点から歯科臨床を捉え、インプラントの存在価値を明確にする最強のインプラント情報誌

インプラントジャーナル 38 2009 夏号

好評発売中

特 集：歯科医療に必要な上顎洞病変の基礎知識

桝屋 順一

上顎洞に病変を有した患者に対する治療は、耳鼻科領域だけの処置では対処できないのではないかと感じており、歯が原因となっているような症例を早期に解決するためにも、歯科と耳鼻科領域は情報交換を活発にするべきだと思われる。

また、上顎洞に病変を有する患者への上顎洞底挙上術の応用基準についても、具体的には定義されていないのが現実である。本稿で示したように、原因を特定し、その原因を排除することによって上顎洞病変は早期に回復傾向を示すことが示唆された。それだけに、今後は耳鼻科領域と歯科領域とのより一層の連携が必要であると考える。(本文より)

国際 A4 判・季刊発行
定価：3,990 円（本体 3,800 円＋税）
年間購読料 15,960 円（税・送料込）

編集・発行：ゼニス出版

Other Contents

上顎洞底挙上術におけるCGF (Concentrated Growth Factors) の応用

フランジキャップによる垂直的GBR - 砂時計型グラフトの提案 -

切削骨片を最大限に利用したソケットリフトの新しい術式
新開発専用ドリルとHAコーティングインプラントを使用したMaxillary sinus floor elevation

初めて経験したインプラントによる大規模な口腔再建 - 治療計画から補綴治療までを行って認識したこと -

All-on-4 Concept 第２回：All-on-4 の診査・診断・手術前準備

Certain® PREVAIL® Implant を応用した抜歯窩周囲骨の保存と審美性の維持

社団法人日本口腔インプラント学会・専門医・認証医取得ガイド

Mac OSX用DICOMデータ解析ソフト「OsiriX」の実力　その7「ThickSlabについて」

抜歯即時埋入インプラントのための一冊
イミディエートインプラントロジー
編集：林 揚春・武田 孝之

日本人などのモンゴロイドは、コーカソイドと比較して骨格系に劣り、顎骨（歯槽骨）の質や量においてもその傾向は顕著です。本書「イミディエートインプラントロジー」は、世界標準のエビデンスを取り入れながらも骨格系に劣る日本人へのインプラント臨床を念頭に置いた「日本人の、日本人による、日本人のための」一冊です。

A4変形・フルカラー
160ページ
定価：17,850円
（本体17,000円+税）

中級者のためのインプラント臨床
INTERMEDIATE IMPLANTOLOGY
著者：林 正人

インプラント臨床における疑問点は、経験を積むほどに形を変えて現れます。本書は、それらの疑問や迷いに一つの指標を示した一冊です。
「インプラント学の基礎的エビデンスを高レベルのインプラント臨床に活かすためには何が必要か？」を著者の豊富な経験や臨床例を基にさまざまな角度から解説しています。

A4変形・フルカラー
230ページ
定価：16,590円
（本体15,800円+税）

●よくわかる歯科インプラントの絵本●
これなら安心インプラント治療
編者：伊藤 輝夫　監修：日本歯周外科学会

インプラント治療をイラストを用いてわかりやすく整理し、やさしく明瞭に解説している患者さんへの説明用絵本です。
患者さんが理解しにくい専門的な分野についても、イラストでポイントを示すことにより十分に理解を促すことができる一冊になっています。

210mm正方形・カラー
64ページ
定価：2,100円
（本体:2,000円+税）

デンタルブックセンター
シエン社
http://www.shien.co.jp
Tel：03-3816-7818
Fax：03-3818-0837
平 日：AM 9:00～PM 7:00
土・日祝日：AM10:00～PM6:00
シエン社は日曜・祝日も営業しております

Yahoo・Google上位表示で来店促進！

Yahoo／Google で、所在地と歯科と入力時に30位以内に表示されない時はホームページの有るべき姿が？？

●ホームページを営業型に変えましょう！
●お客様が閲覧する検索結果はせいぜい3ページ
●3ページとは、検索順位で30位までです。
●貴ホームページが80位にあったとしたら
●お客様で貴ホームページを見る人は皆無です。

BtoN Solution
株式会社ビートンソリューション
Bton-S Corporation Co., Ltd.
東京都台東区台東1-13-6-201
URL:http://www.bton-s.com/
TEL:03-5816-1701
FAX:03-6240-1174

初期費用 0円　SEO導入後も充実のサポート　無駄なコストがかからない完全成果報酬課金

	月額SEO費用		
	1位～5位	6位～10位	11位以下
セットワード	¥1,200×日数	¥800×日数	無料

※セットワードとは「銀座と歯科医院」など2つの単語の組み合わせです。

www.yoshidataro.com

商品の流通を通じて上質な情報をお届けします。

刻々と変化する歯科医療環境。
ヨシダタロウがお届けする商品には
ちょっとした秘密が隠されています。
お客様の医院経営を成功させる
上質な情報もいっしょにお届けします。

宮内庁御用達　歯科医療総合商社

株式会社 ヨシダタロウ

本社	〒110-0008東京都台東区池之端4-10-8	TEL.03-3822-0621	FAX.03-3822-0648
大宮営業所	〒337-0051さいたま市見沼区東大宮5-31-8	TEL.048-686-1345	FAX.048-686-1699
横浜営業所	〒241-0835横浜市旭区柏町3-50-103	TEL.045-364-3041	FAX.045-364-3078
日野営業所	〒191-0003東京都日野市日野台2-7-15	TEL.042-586-6117	FAX.042-584-6043
TY商品センター	〒110-0004東京都台東区下谷3-13-5	TEL.03-3876-0544	FAX.03-3876-0644

展　示　企　業　一　覧

順不同

企　業　名	ウェブサイト
ライフジャパン株式会社	190-0021 東京立川市羽衣町 3-2-4 西国立ビル 203 042-569-6371
株式会社カイマンデンタル	http://www.caimandetai.com/
10DR JAPAN 株式会社	http://www.10dr.co.jp/
ボディプラニング株式会社	http://www.body-planing.com/
トーシンデンタル株式会社	http://toshin-dental.com/
株式会社プラトンジャパン	http://www.platonjapan.co.jp/
有限会社イポナコロジー	http://ipona.biz/
アサヒプリテック株式会社	http://www.asahipretec.com/
コアフロント株式会社	http://www.corefront.com
株式会社セキムラ	http://www.sedent.co.jp/
日本メディカルマテリアル株式会社	http://www.jmmc.jp/
株式会社ポインターメディカル	116-0003　東京都荒川区南千住 7-6-13 03-3807-7523
株式会社システムハイデント	http://www.hi-dent.jp/
西本貿易株式会社	http://www.natumedica.com/

ＵＩＲ 創立 35 周年記念全員発表研修会についてのお知らせ

UIR では、下記要領にて UIR 会員の全員発表研修会を行います。
UIR 会員は、症例発表の準備を行ってください。
抄録：A4 用紙 1 枚（要顔写真）演題名・英題名・名前（略歴なし）・キーワード・症例内容・考察（抄録は 800 字以内）
日時：平成 21 年 12 月 12 日（土）10:00～
会場：テレコムセンタービル東棟 20 階会議室
発表者：UIR 会員
持ち時間：1 会員につき 6 分（発表時間 4 分、質疑応答 2 分）予定
演題申込締切期日：平成 21 年 10 月 31 日
詳細については、後日、文書にてお知らせをいたします。
ご不明な点がございましたら、事務局までメールでお問い合わせ下さい。
（注）指定研修施設活動歴として（社）日本口腔インプラント学会に研究発表が記録されます。必ず全員発表会へのお申し込みを行ってください。

ＵＩＲ 事務局からのお願い

1. 引越等で住所変更があった場合、速やかに事務局までご連絡ください。送付物は、郵便ではなく、クロネコヤマトメール便を利用しておりますので、転送届を郵便局提出されても、当事務局からの送付物は転送されません。当事務局からの送付物を送ることが出来なくなった場合や連絡が全く取れなくなった場合は、退会扱いになる場合がございますのでご注意下さい。

2. 事務局へメールアドレスを登録していない方は、早急にメールアドレスを登録してください。添付ファイルがございますので、携帯電話のメールアドレスではなく、PC 専用のメールアドレスをご登録下さい。また、メール受信制限設定（ドメイン拒否設定）を行っている方は、当研究会のメールアドレスが迷惑メールにならないように設定してください。
   メールアドレス登録方法：
   当研究会事務局のメールアドレスまで、会員番号、お名前、住所、電話番号をご入力し、送信してください。
   UIR 事務局メールアドレス：uir@universalimplant.com
   ドメイン拒否設定解除方法：universalimplant.com を受信許可に設定

3. 日本口腔インプラント学会専門医を申請する際、研修施設が発行する研修証明が必要です（日本口腔インプラント学会専門医制度規定第８条第７項）。この研修証明は認定講習会（旧名：100 時間コース）だけでなく、当研究会が主催する研修会・講演会に参加していることが必須条件となっております。研修会・講演会に参加された方は、当研究会が発行する参加証を必ず保存して下さい。当研究会に研修証明発行する際に、必要となる場合がございます。